

～会場を含めた意見交換を行いました～

【森林整備について】

一般傍聴者A： 四万十町民です。2009年の座談会でもお願いをしたことですが、1つ目は、地球温暖化防止に貢献するために、荒廃森林の整備を進めていただきたいということです。

2つ目には、災害を未然に防止するために、荒廃森林の整備をお願いしたいです。荒廃森林を放っておくと、大雨の時に土石流になると言われています。災害を未然に防止するためにも、森林整備を急いでいただきたいと思います。

3つ目に、地域産業、産業振興計画と関わりがあります、生業となる林業のために、森林整備を進めてください。森林整備を進めていくうえでは、国土調査の経過や、所有者情報を持っている行政の方で計画してもらわないとなかなか進みません。県と町に積極的に関わっていただいて、森林整備の計画策定をしていただきたいと思います。

知事： 林野庁の「森林・林業再生プラン実践事業」の関係で話をさせていただくと、集約型の施業をいかにするかという話ですよね。あれは、もともと、高知県でやっている「森の工場」づくりがモデルだと思っていますから、行政も一緒に入って計画を作っていくということです。ただ、森林所有者確定の問題や、所有権という法律の壁など難しさもありますが、行政も積極的に「森の工場」づくりに関わって進めていきたいと思っています。

生業となる林業という観点においてはぜひ進めていくべきだと思いますが、環境や防災という観点からいけば、「森の工場」づくりだけに林業施策を集中するわけにはいかないと思うので、一般的な間伐を進めていくことも必要だと思います。

また、森林・林業再生プランでは、切り捨て間伐はできるだけ認めないことになっていると思うんですが、森を守るという観点から間伐しないよりは良いと思います。ただ、間伐材をお金に替えられれば、なお良しですね。

高知県は、森林環境税を使って間伐を進めています。残念ながら全て搬出間伐になっていないのが現状です。ただ、間伐面積をもっと増やしていくことで、森を守るということ、是非今後も進めていきたいと思っています。できれば、搬出間伐化によって自伐林家の皆さんと取り組みを進めたり、間伐した木材をチップなどに替えられるような形を今後さらに模索したいと思っています。

しかし、国の「森林整備加速化事業」が今年度で終わりなので、森林整備に大幅にブレーキがかかってしまうかもしれません。私も森林整備加速化事業の存続を林野庁に強く訴えているところです。全国から声をあげていくことが非常に重要だと思いますので、是非、一緒に頑張りましょう。

もう1点、シカなどの鳥獣害の問題があり、対策を取っていますが、より抜本強化しないといけないと思っています。

【地産地消について】

F： 地産地消を推進されていますが、その考えのベースにフードマイレージという概念はお持ちでしょうか。商品を運ぶときにはその距離に応じてCO₂を排出するので、要はそういうことを啓蒙をしていけば、もっと地産地消を推進できるのではないかと思います。

知事： 地産地消は、もともとフードマイレージの考え方からきていて、環境政策の一環でした。我々が3年前に「地産地消」を言い始めた時も、フードマイレージの考えからでしたが、それを、環境政策だけにとどめず、高知県は典型的な非工業県ですから、ものづくりや地元の元気を「地産地消」で、という言い方をして、経済方面に概念を向けてきています。

学校教育では、「食育」という形で、地元食材を使うなど、地産地消を進めたいと思います。